

# 高齢化率日本一でも元気な村 群馬県 南牧村 (なんもくむら)

南牧村(なんもくむら)は、群馬県の南部、長野県との境にあり、標高千メートル前後の山々に囲まれた東西15km、南北8kmの山村です。村の89%が森林で、農地は石垣の段々畑が斜面に張り付くように作られています。



## ◎高齢化率・人口減少率ともに日本一

昭和30年に3つの旧村が合併して南牧村ができました。当時の人口は1万人余りでしたが、現在は2158人(平成27年6月末)に減少しています。また、高齢化率(人口に占める65歳以上の割合)は前回の国勢調査が行われた2010年には57.2%と、全国で最も高くなっています。

さらに、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所がまとめた2040年の人口予測では、人口702人(2010年と比較して71%減)で減少率は全国一位、高齢化率も69.5%に上昇し、こちらも全国一位という予測となっています。

しかし、このデータからは想像できないほど、実際の村の住民は前向きに明るく暮らしているそうです。逆に、この予測値の発表によって、みんなが強い危機感を持つようになり、「何とかしなければ」「何か行動しなければ」「どうしたいが強くなつて、村の活性化がいつまでか」といいます。

## ◎豊かな山の資源に恵まれていた土地

かつて、この地域は豊かな山の資源に恵まれ、林業・養蚕・蒟蒻(こんにゃく)・和紙・砥石など多種多様な産業で潤っていました。

特に蒟蒻は南牧村の段々畑のような急傾斜で水はけのよい特別な山地でないと栽培できなかったため、「灰色のダイヤモンド」と呼ばれるほど高値で取引されていました。しかし品種改良や農業機械などの発達によって、平地での機械耕作が可能となり、南牧村のような段々畑での手作り栽培では太刀打ちできなくなっていました。他の産業も衰退し、この地域の人口流出は止まることはありませんでした。

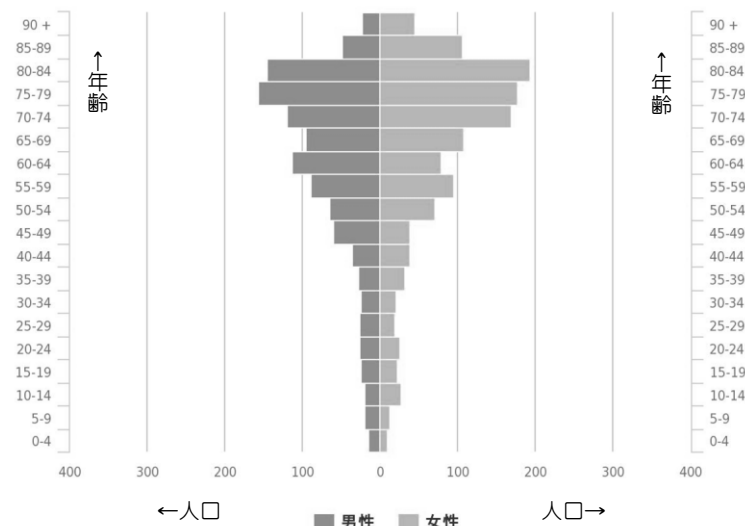
## ◎人口流出を防ぐための地道な努力

村としても、人口流出を防ぐために、ありとあらゆる努力を続けてきました。

周辺都市部への通勤がしやすいように

南牧村の人口ピラミッド 2010年

出典: 国勢調査を独自集計、「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)



道路を整備し、水道や水洗トイレの整備にも力を入れました。ケーブルテレビを開局し、インターネットの環境も整えました。また、学校給食費や保育料の無料化、中学生までの医療費の無料化、スクールバスの運行や高校生の通学費補助など子育て環境の充実。結婚祝い金や出産祝い金なども用意されました。

## ◎官民一体となった「空き家バンク」の取り組み

しかし、わずかながら、村に移住してくる人たちも現れてきました。年金暮らしや自由業、自営業の人たちが、暮らしやすさを求めて村にやって来ていたのです。

行政として、空き家を探して移住希望者に紹介する取り組みは早くから行っていたようですが、当初は「知らない人が来るのは困るので、やめてくれ」という声も多く、貸してくれる空き家は少なかったとのこと。移住して来た人たちも、行政ではなく、独自のつてを頼って空き家を借りていたようです。

しかし、村の将来に危機感を抱いた村の若者たちが2010年に「南牧山村ぐらし支援協議会」を結成し、行政と協力して半年来かけて村の空き家を調査。368軒の空き家を見つけ、入居可能な物件をリストアップし、所有者が「貸してもいい」という物件を「空き家バンク」として村のホームページに公開しました。行政だけではなく、村の若者が動いたことにより、住民の協力も得られたようです。さらに、2012年からは、村が体験用の民家を用意し、

1ヵ月3万円です貸し出し、南牧村での暮らしを体験してもらおう取り組みも始めました。このような努力が実り、移住者は確実に増えているようです。

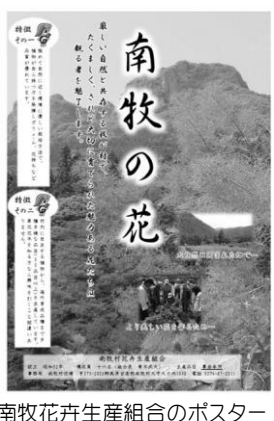
## ◎希望を見出した「花卉(かき)栽培」

今、南牧村の高齢者の元気の源は、「花卉栽培」による収入です。かつて蒟蒻を栽培していたあの段々畑で、南牧村の気候風土にあう品種、しかもできるだけ珍しい品種の花を選んで栽培しています。

1977年に「南牧花卉生産組合」が結成され、現在では、ヒペリカム・ヒメヒマワリ・クジャクアスター・南天・菊など約50品種を出荷しています。主な出荷先は、地元の「道の駅オアシスなんもく」の他、都市部の市場にも出荷されています。組合活動も積極的に行われており、栽培管理の講習や市場視察なども頻繁に実施されているとのこと。

露地栽培の小規模農業なのでコストがかからず、花は軽くて高齢者でも扱いやすいため、高齢になってから組合に加入する人も多そうです。年金・プラスアルファの収入を得ることで仕事を楽しんでいる人が多く、さらに、いっしょに何の花を出荷するかは個人の判断で行われるので、工夫次第で収入も多くなり、それが高齢者の生き甲斐につながっているようです。

人口が減少し、高齢化が進んでも、明るく元気に暮らせる村、そんな南牧村に見習うべき点が多いと感じました。



南牧花卉生産組合のポスター

◎「わいわいタイムス」9月号は9月6日(日)発行予定です。